

外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関する研究

つぼ た こう へい

坪田 光平

国際関係学科

● 連絡先 E-Mail: tsubota@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード マイノリティ、教育支援、進路形成、エスノグラフィー、学校、連携



父母の両方またはどちらか一方が外国籍である場合の子どもの出生数は、1990年代以降徐々に上昇し、近年では新生児全体のおよそ4.2%が外国にルーツをもつ子どもとなっている。これまで外国にルーツをもつ子どもは「日本語を話さない子ども」として理解されてきたが、世代の進行によって日本語を第一言語とする子どもはもちろん、「日本人」としてのアイデンティティを積極的に志向する子どももみられるようになってきている。言語的・文化的に日本社会への統合が緩やかにみられるとはいえ、外国にルーツをもつ子ども・若者をとりまく環境は依然として課題が多く、家庭・学校・仕事にわたって不利な立場に置かれている。こうした実態を社会学的に解明しながら、誰もが排除されない社会にむけた支援施策の構想や連携のあり方を模索・検討している。

アピールポイント

呉永鎬・坪田光平編著, 2022年, 『マイノリティ支援の葛藤—分断と抑圧の社会的構造を問う—』明石書店
清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平, 2021年, 『日本社会の移民第二世代—エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今—』明石書店
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編著, 2019年, 『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版